

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201801		
法人名	有限会社 RAIMU		
事業所名	グループホーム来夢	ユニット名	
所在地	長崎県佐世保市日野町732番地		
自己評価作成日	2021年12月18日	評価結果市町村受理日	2022年4月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_pref_topjigiyosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2021年3月30日	評価確定日	2022年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念である「らしく 生きよう 無限に」を念頭に入居者様一人ひとりが自分らしく生活して頂けるように支援を行っております。今何を思っているのか、考えているのか、日頃の触れ合いを生かし、対応を心掛けております。このホームでは小型犬一匹も飼っており、入居者様の癒しとなっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホーム来夢”は2003年に開設している。代表は「認知症の状態の方のために、我々が何をなすべきなのか」を常に考えと共に、職員個々に「あなたの介護プライドは？」を問いかけている。自分達の使命を見つめ、理解を深め、実践に繋げていけるように寄り添い、先を見据えた個別の導きを行っている。「自分がされて嫌なケアはしない」を基本とし、ホーム名である「来夢」(らいむ)に込めた意味、『「らしく」は“ご本人らしく”、「いきよう」は“命・生き生き”、「むげんに」は“継続して”』の実践のために、入居者の方々の生活歴・生活習慣・行動の目的や背景等に共感し、個別の寄り添いやケアに繋げている。2つのホームを統括する課長と共に、2022年1月に就任した新管理者を中心に、更なるチーム力と質の向上に努めている。入居者の方が「自由」な生活の中で、「美味しい食事」を楽しく食べることができ、畑で野菜を作って、「自給自足」できる環境を目指し、外出の機会を増やすことなどを目標にしており、環境改善も始めている。“ウィズコロナ”を見据えた様々な方策を代表が導入し、日々少しでも安心した生活になるように地道な取組みを続けているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員2/3くらいが 3. 職員1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>全ての職員とはいえませんが、管理者が時間のある時に職員に伝えている。</p>	<p>理念は『「らしく いきよう むげんに」 その人らしく 生きて頂く 』であり、入居者や職員が目につくように掲示している。代表が命名された「来夢」というホーム名を元に、開設時の職員が理念を考え、今に至っている。「その人らしく」の中に「地域の中で」という意味も込められ、開設前から小学生や地域の方との交流を続けてこられた。コロナ禍においても日々の役割を作り、楽しく過ごせるように努めている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>散歩に出かけた際は、下校途中の地域の子供たちと挨拶をするなど交流ができる</p>	<p>子ども達を含め、散歩の時などに地域の方々と温かい挨拶が飛び交う地域であり、長年代表も日野小学校の命を守る体験(高齢者の疑似体験)の講師を務めてこられた。法人内の生活支援コーディネーター(SC)による地域支援事業も行われ、特別支援学級の子ども達や地域の方々の協力もあり、綺麗にラッピングした雑巾を幼稚園や保育園の子ども達に配る取り組みも行われている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>広報誌・ホームページにて配信している</p>	/	/
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>昨年度よりコロナの影響で、対面式ではないため、関係が薄れているように感じていたが、今後は地域の集まりなどが開催されるのであれば積極的に参加したい</p>	<p>コロナ以前は3つの事業所「グループホーム来夢」「系列の地域密着型デイサービス(年2回)」「隣接する別系列の小規模多機能型事業所」と合同で開催していた。コロナ禍は書面会議となり、日常生活の様子、感染対策、研修報告等と共に、ヒヤリハット、災害対策の書面情報交換を続けており、ご意見や質問はFAXや手紙で頂いている。外部評価結果も報告し、「ご家族との連携や情報共有を更に密にして、良いケアに役立てて欲しい」等のアドバイスを頂いた。</p>	<p>今後も運営推進会議を通して、ホームの取り組み【生活支援コーディネーター(SC)の活動内容や、ホームの畑作り等のボランティアの方々(相浦地区)の活動等】を報告し、更なるご意見やアドバイスを頂ければと考えている。</p>

5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請届や、報告等の際には行政に相談している。	2020年度から地域支援の取り組みを更に強化し、佐世保市との連携を続けてこられた。法人内の生活支援コーディネーター(SC)が主となり、地域支援活動を続けている。代表は県の役職(人材確保、介護福祉士会会長など)を務め、地域支援推進員、認知症介護指導者として長崎県下の地域包括会議等でアドバイスしたり、県や市の依頼を受け、講師として認知症の講習などに協力している。新管理者も佐世保市を訪問し、ご挨拶しており、運営推進会議の報告書等も持参している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や職員会議等で毎月身体拘束委員会の議事録を回覧して、何が不適切ケアになるのかを再認識している。	「自分がされて嫌なケアはしない」が基本であり、法人内で身体拘束(虐待)の内部研修や委員会活動を継続している。不適切ケアの有無を確認すると共に、職員アンケート(毎年)も行い、日々のケアの振り返りを続けている。新管理者も今までの研修内容や議事録を確認しており、今後は更に自己チェック表を活用した振り返りを年4回程行い、より深い理解に繋げていく予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修会にて虐待の防止について学び、しない、見過ごさない環境作りに努めている。		
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている入居者がいる。その方の金銭管理等を通じて、権利擁護を学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定の際は、ご家族に事前に案内文章にて説明を行い、また、問い合わせ等についても、十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の声を職員や家族へ伝えたり、新聞等を利用し機会が得られるよう努めている。面会時の家族との交流にも耳を傾けている。	コロナ禍における面会自粛の時期もあるが、窓越しの面会は行われている。家族の要望を伺うように努めており、日々のケアに活かしている。広報誌(毎月)と写真付きの郵便、電話等で日々の暮らしぶりを報告すると共に、管理者の交代なども家族に説明している。薬の変更や金銭管理状況等は管理者から密に家族に報告している。	

11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が職員の個々の要望をよく聞いている。また、管理者が自らが現場にでて、勤務や業務内容についても理解し、不安や不満がなく働けるように配慮している。	2022年1月から新管理者になっており、職員の不安や要望を丁寧に把握し、個々の対策を行ってきた。職員の得意不得意を把握すると共に、チームで支えあう体制も強化しており、入居者と職員個々の負担を減らす介護技術の指導を続けている。職員のより良い動線を考えたホーム内の環境改善も続けており、職員の安心と信頼に繋げている。	①今後も各種書類の再確認を行い、系列のホームと共通の書類の作成を行うと共に、書類の保管場所の見える化を行っていく予定である。 ②行事担当を振り分けており、活動の意義を理解し、職員全員が計画書や報告書を確実に提出できる体制を作っていきたいと考えている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	女性活躍応援宣言事業所登録済。有休休暇やシフト調整等協力的で働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTでの教育システムを導入、実践。及び法人勉強会の質の改善。社外研修会においてはウェブ積極的に活用している。また、実践者研修等への参加促しと努力		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会への参加は、ウェブを活用し各種勉強会に参加している。		
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずご挨拶し、ご本人の隣に着席し優しく微笑むようにしている。不安な様子がある時には、優しくお声掛けし、時には静かに見守りし、ご本人の言葉が聞けるようであれば、うなずき、話を傾聴するように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所時の挨拶・配慮の徹底。入居者のケアについての要望は可能な限り達成できるように努める。		

17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」に必要とされる支援内容について管理者に報告・相談することを徹底している。日ごろから、情報共有に努め、家族への報告や相談も細やかに伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お世話してもらうではなく、ホーム(家族)の中の一人として、「暮らしを共にしているという気持ちになれるよう、職員の仕事ではなく、入居者と一緒に家事等を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共通認識を持てるよう、家族や入居者との関係作りに努めている。毎月発行の広報紙等にコメントを記入し、発送している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	情報を共有し、なじみの場所へドライブしたり、なじみの人との面会であったり、これまでの関係が継続できるよう配慮してりいる。	日々の会話の中で家族構成や生活歴等を把握し、記録している。以前の職場近くに行き、当時のお話をして頂いたり、携帯電話で家族とお話をされる方もおられる。今後もコロナの感染状況に応じて、自宅やお墓参り、馴染みの場所などへの外出の機会を作りたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	協働作業などへの声掛けや、一緒にテレビ番組の視聴のお誘いなど言葉が出なくとも、輪の中心にいて孤独感を持たないよう配慮している。		
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りを行ったご家族へのフォローとして、お電話やお手紙での慰めのお声掛けを継続している。ご家族には大変感謝していただいている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の触れ合う中や会話の中で、希望や意向の把握に努めている。本人のペースで自立できるよう見守りながら支援している。</p>	<p>入居者の真の願いを引き出せるように努めており、「回転饅頭が食べたい」等の要望を叶えている。意思疎通が難しい方もおられ、表情や言動を丁寧に確認しながら日々のケアに繋げている。ご本人の意思決定を大切にされており、「質問内容を理解できているのかは、ご本人しかわからない」と言う思いで、「うなずき」のご様子などを確認させて頂いている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前の状況を把握し、ご家族に協力して頂いたり、入居後の生活状況や趣味、嗜好などについて職員間で情報共有している。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>基礎的な身体的な部分と関わりの中で見つける。日々観察をし、情報共有・現状把握に努めている。</p>		
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ケアチェックは指定のシートに記入し、確認している。職員によって(スキルの違い)ケアの考え方などの違いがあるが、カンファレンスを通じて意見交換を行い、統一したケアができるように努めている。</p>	<p>「介護サマリー兼アセスメントシート」に家族状況、生活歴、既往歴、趣味等を記入している。ケアチェック表も活用し、アセスメントを行い、生活習慣、有する能力、介助理由、希望、ケア内容などを記入している。介護計画には「湯温42度以下で設定」「1日水分1500cc」等と共に、機能訓練なども盛り込まれている。ご本人と家族の要望を伺い、日々の生活の中で役割を発揮して頂けるよう、「お盆拭き」「茶碗拭き」「洗濯物たたみ」等、ご自分でできる事をして頂いており、適宜、計画の見直しを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>利用者様の行動だけではなく、職員の気づきや利用者様の様子も記録することで職員同士の情報共有につながることを会議で伝えている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>既存のサービスに捉われないよう、日々職員へ伝えている。例えば、夏には花火大会を開催したり、バーベキューの提案等行っている。</p>		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例えば近くのスーパーの移動販売に協力してもらい、自己選択し好きな物を購入できるなど検討中。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には、ご本人もご家族も信頼が厚く、ご家族利用者様とも満足されている。他科を受診される場合はいくつかご紹介させていただいている。	往診(月2回)や訪問看護(毎週木曜日)を受けている。ホームの看護師にも相談でき、24時間体制でホームの看護師、協力医療機関と連携が取れる。認知症専門医や歯科医師とも連携し、適宜アドバイスを頂いている。職員の観察力も深く、早期対応に繋げている。	今後も訪問看護師のアドバイスを活かせるように、ホームの看護師と密に協議していきと共に、主治医や訪問看護師とケア会議を行う機会を作っていきたいと考えている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションによる健康確認の際、近況を報告している。個別に助言等をいただく(受診等)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は情報提供をより正確に早急に行う。SWとの連携を密に行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	判断はご家族に任せてあるが、出来れば最後まで当ホームで看取らせて頂けるよう最期まで支援させて頂くという方針で職員間で共有している	看護師と一緒に緊急時や終末期マニュアルの見直しが行われた。入居時に終末期のホームの方針を説明し、意向確認を行っている。「最期は病院で」と希望される方も多く、病状に応じて家族も受診同行し、医師と話し合いをしている。2021年度にホームで初めての看取りケアが行われ、家族もカウンを着て頂き、お1人ずつ面会をして頂いた。アイスを持参して下さり、お口に入れて下さった。職員もご本人のお好きな音楽を流したり、職員と一緒に歌われる時もあり、最期まで誠心誠意のケアが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、緊急対応に備えている。		

35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災・地震・水害マニュアルを作成している。地域住民と協力しての防災訓練は今年度は実施できていない。	コロナ以前は消防署・消防団と避難訓練を行っていたが、コロナ禍はホーム単独訓練を行い、訓練前に消防署に相談し、アドバイスを頂いている。ハザードマップ上、土石流危険渓流区域であるが、公園の外壁工事が行われ、相浦川の川幅を広げる工事も行われている。代表が中学校の評議委員をしており、災害発生前の相浦川の見回りを夜間も複数回行い、子ども達と先生等が登校可能かどうかの連絡係を担われたり、「おせっかいネットワーク」もあり、災害時の応援体制が作られている。相浦地区に自衛隊の方々も在住し、地域住民と共に協力体制ができています。代表が主になり法人でBCP(災害時の事業継続計画)を作成中で、各事業所で災害時のマニュアルを作成し、法人全体での取りまとめを行っている。災害時の備蓄も行っている。	
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症になられても人生の先輩として対応するように心掛けている。時に口調が強くなる事があるが、職員間で声掛けしながら、反省する機会も見られる。	代表は「自分がされて嫌なことはしない」と言うことを職員に伝えている。管理者も、ご本人の行動には必ず目的があり、何をしたいと思われているのを見守る(見護る)事を職員に伝えている。入居者の方に自由に動いてもらうことで、日々穏やかにニコニコと笑って過ごされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を促したケアに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員全員とはいえないが、利用者のペースに沿ったケアに努めている。入居者の思いを聞き取りながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	オシャレを楽しむかたには、美容室と一緒にでかけ、普段着でも組み合わせなどを工夫するなど、身だしなみにも気を付けている		

40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しみにされている方が多く、キッチンに職員が立つ姿が見えることで、食事に興味を示してくださる。また、配膳や食器の準備など手伝ってくださっている。	2021年5月から3食手作りに戻されている。献立のバリエーションも広げており、ホットプレートでピザやオムライス、たこ焼きなども楽しまれている。入居者も“もやしの根切り”、お盆拭き等をして下さり、料理が得意な入居者に、月1回料理を作ってもらい、自信に繋げている。ミキサー食の方もおられ、1品ずつのミキサーにしており、味も彩りも配慮している。ご本人の食事のペースに合わせて優しく食事介助が行われている。5年前までは餅つきを行い、地域の方に配られていた。今後も更なる笑顔を増やすためにバーベキュー等の企画を行っていく予定である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量に関して、看護師と協議している。摂取量が減少傾向の方へは、嗜好品などご家族にも相談し支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては、確実に毎食後行うようにしている。口腔ケアだけではなく、食前の口腔体操もかならず実施している。また、定期的に歯科往診を利用し口腔内の清潔保持や義歯の調整など支援している。		
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のサインや行動パターンを把握するよう努めている。	布の下着を着用し、自立している方もおられる。排泄チェック表をもとに必要時の誘導をしており、失禁の回数が減っている方もおられる。管理者が職員に最適な移乗方法、オムツ交換の仕方、オムツの選定方法などを指導しており、スキルアップに繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす身体への影響を職員で周知し、食事や飲水、機能訓練等ケアプランに反映させている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	年々、入居者の介護度が高くなり、家庭用の風呂場の環境では、限界を感じている。マンパワーで全ての入居者の意向に沿うのは厳しいこともあるが、職員の配置や業務に余裕がある日は2人介助にて浴槽にゆっくり入って頂けるよう配慮している。	お風呂は好きかどうか、お風呂の入り方の習慣や回数、時間等をお聞きしている。湯船に浸かり、職員との会話を楽しまれ、職員持参の菖蒲湯を楽しまれている。心身状況に応じて2人介助をしている。新管理者のアイデアでシャワーの位置を変え、使いやすくなっており、できる範囲は洗って頂いている。入浴を拒まれる方は理由を丁寧に確認し、ご本人が入浴したいと思える声かけを心がけている。	

46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご家族の写真や時計などを壁に飾り、その人らしさの居室となっている。また、エアコンや湯たんぽなどで寝具の調節を行っている。シーツなども暖かなものをご家族に準備していただいて安眠に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に服薬については各職員が看護師と協議し薬の副作用などについて話し合っている。訪問看護や主治医にも相談しながら、全ての職員が意識を持ち支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出や買い物支援、塗り絵や脳トレを提供し個人個人で楽しませている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望に沿った外出支援は可能な限り対応している。	ホーム周辺を散歩し、近所の庭先の花見をされたり、2階のデイの利用者とドライブに行かれている。感染対策に留意しながら、パン屋にお連れし、誕生日ケーキを買われた方もおられる。手製のお弁当を持って柚木ふれあいの森公園に行き、八重桜を楽しむこともできた。コロナ以前も季節の花見を楽しまれ、外食(回転寿司、モスバーガー等)もできていたが、コロナ禍は持ち帰りをして、ホームで楽しませている。	
自己	外部		自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は、所持して買い物支援に職員が同行している。お小遣い程度にお渡しして、好きな物(ケーキ等)を買いに行くなどしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話したい方は職員が連絡をし直接本人と話ができるよう支援している。また、年賀状を毎年ご家族が準備して一言記入して頂いている。		

52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的に窓を開け換気を行い、レースカーテンなどもすべて開けて、日光を取り入れるように配慮している。ラジオ体操などでリハビリの機会を取り入れている。	感染対策でオゾン発生装置の機器を導入しており、今後は「ナノイーX」の導入も検討されている。リビングは明るく、職員が持参した季節の花を飾り、換気(5回/日)も続けている。新管理者が就任し、ドアの開閉修理や壁紙の張替え、浴室のシャワーの位置の変更、古い家具の処分なども行われ、職員個々の動線に応じた環境改善が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	誰でも気軽に過ごせるようにソファを配置している。相席になった方と一緒にテレビを見たり会話するなど楽しく過ごされることが多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、ご本人が安心につながるものは持ち込んでいただいている。写真や本や筆筒など。	居室入口にリボンを飾っている方もおられ、迷わず居室に戻れている。馴染みの品物(筆筒、鏡、ブラシ等)や家族の写真も置かれており、居室のレイアウトをご本人や家族とされている。ご自分で筆筒の整理整頓をしたり、モップで床掃除をされる方もおられ、加湿器を使用し、適宜換気もしている。コロナ禍の感染対策で、足踏み式開閉ごみ箱を設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室配置が複雑なので混乱されないようにトイレには表札をつけている。		